opusdei.org

結婚前の交際の意味

喜びや感謝の気持ちを伝えること、そして、あえて怒的にあるでといた気持ちを建設的にとした気持ることは結婚前の交易をは結婚があるに満ちた実りあるも大いで、将立ちます。

2025/06/06

ドミニク&クリツィア・クー リー夫妻〒による寄稿〒

ポップ・カルチャーが私たちの信念や行動を映し出し、あるいはそれに影響を与えると考えるなら、ブルーノ・マーズ図のヒット曲『Marry You』を聴いて、不安を覚える人がいるかもしれません。

今夜は 素敵な夜だ

何かバカなことをしたい気分さ

ねえベイビー

君と結婚したい気分なんだ

(中略)

もし目が覚めて 君が『別れたい』っ て思ったって かまわない 僕は 君を責めたりしない

『楽しかったよ ガール』って ただ それだけさ

離婚がますます一般的になっているのは確かです。たとえば、アメリカでは結婚が最終的に離婚に至る確は、40~50%と推定されていますは、ベルギーでは、生涯にわたするになるがは全体の約3分の1にすって続く結婚は全体の約3分の1にすずでも、シンガポーでがよった先進国では離婚を出るいたもといった先進国ではありまするを先延ばしにする傾向がありまするです。

しかし、離婚が結婚から抜け出した い人々にとって一つの選択肢である 一方、多くの人々はいまなお、結婚 を生涯の絆と見なし、理想のかたち と考えています。そして、ポップカ ルチャーもまた、そうした憧れを映 し出しています。

イギリスのシンガー・ソング・ライター、エド・シーランの『Thinking Out Loud』には、次のような歌詞があります。

君の足が 昔みたいにうまく 動かな くなっても

(中略)

僕が 君を抱き上げることが できな くなっても

(中略)

ダーリン 僕は七○歳になっても きっと君を愛しているよ この曲は世界各地で音楽チャートのトップを飾りました。

結婚を「一生続くもの」として捉え、それを目指すカップルは、結婚生活が始まってからだけでなく、結婚式の何か月も前、あるいは何年も前から、しっかりと考え、祈り、努力を重ねておく必要があります。

聖ホセマリアは、この交際期間があ まり長くなりすぎないようにすべき

[5]0

だと述べています。聖なる結婚生活 を共に歩むのにふさわしい相手かど うかを、合理的な確信をもって見極 められるだけの期間で十分だという のです。

真剣な交際は、現代の人間関係を損 なっている二つの極端な傾向を避け る助けとなります。一つは、感情や 一時の熱中に突き動かされて、結婚 を性急に決めてしまう傾向です。 カップルは、しっかりと目を開い て、「恋」に目をくらまされること なく、結婚に向かうことができま す。もう一つは、責任のない関係を 繰り返しているうちに行き詰まりに 陥ってしまう傾向ですが、真剣な交 際はこれも防ぎます。この後者の現 象について、フランシスコ教皇は 「永遠への恐れ」と呼び、次のよう に警鐘を鳴らしています――「『仮 の文化』に支配されてはなりませ ん! 今日、この文化が私たちすべて の中に広がりつつあります。しか

し、それは正しい文化ではありません」[6]。

この「永遠への恐れ」の処方とし て、フランシスコ教皇は「真の愛し について語っています。それは、単 なる心理的・生理的な状態ではな く、「ひとつの関係」であり「成長 していく現実しなのです。そして教 皇は、例えとしてこう述べていま す。――「それは家のように築かれ ていくものだと言ってよいでしょ う。家というものは一人で建てるも のではなく、だれかと協力して建て るものです。ここで『建てる』と は、互いの成長を促し、支え合うこ とを意味します。親愛なる婚約中の カップルの皆さん、あなたがたは 今、共に成長し、家を築き、永遠に 共に生きる準備をしているのです。 あなたがたは、移ろいやすい感情と いう砂の上に家を建てようとは思わ ないでしょう。むしろ、神から与え られる真の愛という岩の上に、それ

を築きたいと願っているはずです」

コミットメント (結びつきの決 意)

キリスト教の結婚にあずかるとき誓とない、大切ない、大切ない、大切ない、大切ない、大切ないではない、「順境のない、「順境をもときも、富めるときも、なるときも、ないにはないときも、死がにはないともで」、とは、はないとはないくものです。 は、はなくものです。 は、ないくものです。

おそらく最初の「コミットメント (結びつきの決意)」は、ふたりが 互いに惹かれていることに気づき、 単なる友人ではなく、それ以上の存 在として相手をより深く知ろうと決 めたときに生まれます。もしふたり が、結婚という目的に向かって意識 的に交際に取り組むなら、それは初 めの段階から「仮の文化」への処方 となりえます。時が経つにつれて、 愛と友情の絆が深まり、それにとも なって互いへのコミットメントも成 熟していきます。

そしてふたりが「結婚の準備ができ た」と感じるとき、大きな節目が訪 れます。新たなコミットメントが交 わされ、互いに結婚すること、そし て、それに向けて、これまで以上に 真剣に準備していくことが約束され るのです。ここで注意すべきなの は、結婚の誓約に至るまでに交わさ れるすべてのコミットメントには、 法的な拘束力がないということで す。もし拘束力があるとすれば、結 婚前の交際が「気づきと見極めのた めの時期」であるという本来の目的 が損なわれてしまいます。

そして、結婚式当日に交わされる最後のコミットメントこそが、生涯にわたる約束となるのです。この最終的な誓いが真に意味あるものとなるためには、それに至る交際期間を、心を開き、理性をもって互いを理解し、互いに成長しながら、喜びに対った友情のうちに過ごすことが大切です。

愛と結婚前の交際

しかし、「仮の文化」のさまざまな 形態(たとえば同棲や結婚前の性的 関係)は、互いを発見していくため の大切な期間を非常に困難なものに してしまいます。交際の初期に肉体 的・性的な側面に踏み込んでしまう と、それ以外の大切な側面が軽んじ られてしまいがちになります。恋人 たちはやがて身体的魅力や情熱に目 を奪われ、結婚に至る過程で本来求 められる、相手に対する客観的な見 極めができなくなってしまいます。 その結果、しっかりと目を開いて結 婚に踏み出すことができず、後に なって後悔や心の傷を負うことにな りかねないのです。

「将来の結婚生活において相手に誠 実であってほしいと願うなら、今こ の時点で誠実であることを確かめな さい」という格言は大きな意味を 持っています。現代の若者たちに とって、この試練がとくに重要であ ることは、数多くの実例が示してい ます。そして実際、この試練を乗り 越えた経験こそが、その後の健全な 家庭生活を築くための、確かな保証 となってきたのです。

貞潔と清さは、健全な交際において 欠かせない重要な要素です。映画や 広告、音楽がどのようなメッセージ を流していようとも、貞潔を守ることは十分に可能です。また魂を深く 満たすことでもあります――もて努力 を惜しまない場合に限られますが。

聖ホセマリアはこう教えています。 「貞潔とは、どのような生き方にを方な生きす。とは、どのような生きす。 「貞潔とは、どのような生きす。 「しても愛を若々しく保つ徳じはがあり、結婚の芽生えを感じは、結構を にふさわしい貞潔があしい貞潔があるのです」 「題」。 貞潔はすべての男女にとって重要な価値であり、神を見ること、そして神の声に耳を傾けることを可能にます。まさに「心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る」は、人が愛の教えを理解し、身につけるための力を与えてくれます。

成長の時

交際を通じて、カップルは将来の幸福な結婚生活に欠かせない多くのうとでいきます。これでは、大きなかけようと努力するというとの品格を磨くことにいるがり、結婚というるので生きることを可能に次かたちで生きるで生きなったりが挙げられます。

無私と寛大さ

こともあるでしょう。自分の欲求を 抑え、相手を思いやるには、自分自 身に「ノー」と言える力が必要で す。これは、円満な家庭生活を築く 上で非常に重要な要素となります。

忍耐と謙遜

交際を通じて互いをより深く知るより深を通じて互いをより深く知ると、相手の中に、あるさをもりの中にも、欠点や弱さを見いたすると、があるないの弱さに対して忍耐をしたが困惑を乗せんなどがはないながですがながながながないないのです。 一次ではないないのです。 ではないないのです。 を受け入れるのです。 を際を通じて互いをより深く知るといたがは、 ないのの弱さに対して忍耐をしたがいないのです。 にないないないのです。 を受け入れるのです。

もちろん、それらの欠点が結婚という召命を生きる上で重大な障害とならないかぎりにおいて、私たちは将来の伴侶に対して忍耐強くあり、その苦しみに寄り添い、励ましを与え

るべきです。また、自分自身も謙虚 さをもって自らの不完全さを認める 姿勢が求められます。たとえ自分が 正しいと思えるときであっても、必 要に応じて指摘を受け入れ、許しを 求めることができるようでなければ なりません。

ジョン・レジェンドmの楽曲『All of Me』の歌詞が思い出されます。

僕のすべてが 君のすべてを愛している

(中略)

君の「完璧な不完全さ」も含めて す べてを

(中略)

君のすべてを 僕に預けてほしい

僕も僕のすべてを 君に差し出すから

君という人 そのものを 僕に預けて ほしい

トランプのカードは すべてテーブル の上で

お互いのハートを 見せ合って

すべてを 賭けているんだ

どんな困難が待っているとしても

節制と勇気

キリスト教のカップルは、交際の期間中、節度をもって日々を過ごし、 結婚前の肉体的な親密さへの誘惑に 流されないように求められていま す。人は決して、他者の自己満足の ための手段や道具として扱われたい とは思わないものです。節制を生き るということは、人格を鍛え、より 大きな喜びと思いやりをもって他者 と関わる力を養うことでもありま す。

交際や婚約を、いわゆる「試しの結 婚」と見なす人もいるかもしれませ ん。しかし、聖ホセマリアはこう強 く戒めています。「良識ある人間な ら、ましてキリスト者であるのな ら、そのような態度は人としてふさ わしくないと考えるはずです。それ は人間の愛を貶め、愛を利己心や快 楽と混同してしまうことにほかなり ません。(中略)愛を工業製品のよ うに扱ってはなりません。愛は、気 まぐれと安楽さ、興味関心といった 基準によって試され、その後に受け 入れるか拒むかを決めるようなもの ではないのです | ……。

友情

友情は、質の高い時間を共に過ごす ことによって育まれます。ですか

ら、良い交際における必要不可欠な 側面の一つが「互いにどのように時 間を過ごすか」に心を砕くことであ るのは、見過ごされがちであります が、ごく当然のことです。会話は友 情の成立に不可欠な条件であり、意 思疎通の不足で結婚生活が深刻な困 難に陥ることは少なくありません。 カップルは、交際の初期の段階か ら、互いに良いコミュニケーション を取る方法を学ぶことができます し、また学ばなければなりません。 たとえば、一日の出来事や互いの関 心事について語り合い、意見を交わ し、価値観や希望、夢について話す ことが大切です。喜びや感謝を伝え ること、そしてとりわけ、怒りや傷 ついた気持ちを建設的に伝える方法 を学ぶことは、交際を喜びに満ちた 実りあるものとし、将来の結婚生活 にも大きな助けとなります。

より深い価値観について、しっかり と時間をかけて語り合うことが欠か せません。カップルは、人生や愛、 家庭に関する基本的な価値観を供えているを確認し、将来を合いることがある。 世通の夢を持っているから、 は通べの関心を合い、何いもまでの関心をです。 をはいるがい、何いもないの関心をです。 をはいるがい、何いもないの関心をはいるがい。 はないの関心をでいるがい。 はないのはないではないではないではあるのではあるのな結びできにあるのではあるのではあるのではあるのではあるのではあるのではあるのではあるのな話ができた。

もちろん人はそれぞれ異なり、男女 の感受性には特有の傾向があること にも注意を払うべきです。男性は、 自分にとってまったく新しい感受性 に対して心を開き、それを知り、受 け入れ、そして愛することが求めら れます。

交際の時期とはまた、カップルが感受性や洗練された礼儀作法を身につけていくべき時期でもあります。教

皇フランシスコがこの三年間にわたり繰り返し説いてきた助言の一つに、三つの小さな言葉の大切さがあります――「よろしいでしょうか?」「ごめんなさい」「ありがとう」。これらの言葉は、単なる形式的な言い回しではあってはならず、互いへの深い敬意と愛情を映し出すものでなければなりません[12]。

交際中には、工夫を凝らすことが大 切です。すなわち、身体的・性的な ものに頼るのではなく、深い愛や思 いやりを伝える方法を見つけること です。たとえば、花を贈ること、相 手のために食事を作ること、手書き のメッセージや贈り物、心を込めた 働きかけ、優しく気品のある言葉な ど――愛のやさしい武器庫には、実 に多くの手段が詰まっています。こ うした工夫が失われ、互いに自分の 方向にばかり進んでしまうと、愛情 はしだいに冷めていき、やがて「私 たちはあまりにも違いすぎる。別れ たほうがいいかもしれない」という 思いが、水平線のかなたに浮かんで くるようになります。

内的生活

これまで述べてきたすべてのことに おいて、何よりも大切なのは、神と の強い結びつきです。祈りと秘跡を 通して与えられる恵みがなければ、 愛はたやすく底の浅いものとなり、 犠牲は重荷となり、希望は色あせて いきます。教皇ベネディクト十六世 は、愛についての回勅の中で、次の ように述べています――「愛を与え たいと思う人は、愛をたまものとし て与えられなければなりません。た しかに、主がいわれたとおり、人は その人の内から生きた水が流れ出る 源となることができます(ヨハネ7・ 37-38参照)。けれども、そのよう な源となるためには、つねに第一の 源泉から飲まなければなりません。 第一の源泉とは、イエス・キリスト

です。このかたの刺し貫かれた心から神の愛が流れ出るからです(ヨハネ19・34参照)」[13]。

祈りのうちに、私たちは自らについて新たな気づきを得、寛大を見い道を発見い道を発見した発見した発見した。 さらにはなってはなって接することにはするにはなって接ずることをになるがになるがながながながない。 がいていますがながないないでくださる方だからです。

[1] 【訳註】シンガポール在住の夫婦で、カトリックの価値観に基づいた結婚や交際についての執筆活動を行っている。

[2] 【訳註】この寄稿は2016年にオ プス・デイの英語版ウェブサイトに 掲載された。<u>https://opusdei.org/en/article/courtship-makes-good-sense/。</u>

[3] 【訳註】アメリカのシンガーソングライター。グラミー賞受賞。 『Marry You』のテーマは今この瞬間に身を任せた「気まぐれ結婚」。

[4] アメリカ心理学会「結婚と離婚」。https://www.apa.org/topics/divorce/。

[5] Conversations with Monsignor Josemaria Escriva de Balaguer(『ホセマリア・エスクリバー師との対話』未邦訳) p.105.

[6] 2014年2月14日教皇フランシスコー般謁見。

[7] 同。

[8] 聖ホセマリア・エスクリバー 『知識の香』3章「結婚への召し出 し」25節「人間的愛の聖化」。

[9] マタイ5・8。

[10] 【訳註】アメリカのシンガーソングライター。グラミー賞、アカデミー賞、トニー賞、エミー賞を受賞。『All of Me』のテーマは「恋人への無条件の愛」。

[11]上掲書[2]、同頁。

[12] 2015年5月13日教皇フランシスコー般謁見参照。

[13] 2005年12月25日教皇ベネディクト十六世回勅「神は愛」第7項。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/kekkon-kousai-imi/ (2025/12/11)